

対照研究とスペイン語教育：疑問詞cualを中心に

著者	和佐 敦子
雑誌名	CLAVEL
号	2
ページ	39-48
発行年	2012-10-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1085/00001244/



対照研究とスペイン語教育

—疑問詞 *cuál* を中心に—

和佐 敦子

キーワード：対照研究，スペイン語教育，疑問詞 *cuál*，母語転移

1. はじめに

スペイン語を学ぶ日本語話者にとって習得が難しい文法項目の1つに疑問詞 *cuál* がある。

(1) a. ¿**Cuál** es la capital de España?

‘Which is the capital of Spain?’

b. スペインの首都は? どれ / どこですか。

c. *Which/**What** is the capital of Spain?

日本語話者によく見られるのは、(1a)において疑問詞 *cuál* ではなく、*dónde* (where)を使うという誤りである。

『現代スペイン語辞典』(1999)によれば、*cuál*は英語の *which* に相当し、「選択の疑問代名詞・形容詞」であるとされ、日本語では「どれ、どちら」を意味することが記述されている。しかし、首都名を聞く場合、日本語では(1b)のように「どこ」が使用され、「どれ、どちら」は使用できない¹。したがって、(1a)において *dónde* (where)を使用するという誤用は、日本語からの負の転移が一因であると考えられる。

一方、英語では(1c)のように *what* が使用され、*which* が使用できるのは、次の下線部のように聞き手に選択肢を示す場合である。

(2) **Which** is the capital of Spain, Madrid or Barcelona?

さらに英語では、日本語の「どこ」と対応する *where* を使った次のような疑問文も可能である。

(3) **Where** is the capital of Spain?

¹ 「どれ」が使用可能になるのは、都市名が書かれた地図を見せながら首都を聞くといった特別な場合に限られる。

しかし、(3)はスペインの首都名ではなく位置を問う疑問文になるため、答えは“*It is Madrid.*”ではなく、“*It is in the middle of Spain.*”となる。

このように、スペイン語の疑問詞 *cuál* は日英語の疑問詞と対応しない場合があるため、日本語話者にとって習得しにくい文法項目の1つとなっている。Fries(1945)は、目標言語と学習者の母語との対照研究に基づく効果的な教材の重要性を次のように説いている。

“The most efficient materials are those that are based upon a scientific description of the language to be learned, carefully compared with a parallel description of the native language of the learner.” (Fries 1945: 9)

本稿の目的は、日本語話者のための効果的なスペイン語教材作成のための基礎研究の取り組みの1つとして、疑問詞 *cuál* の意味機能を日西対照言語学的観点から明らかにすることである。

2. 疑問詞 *cuál* と日本語疑問詞の選択基準

疑問詞 *cuál* の用法について考察した一連の研究に木村 (1994, 1995, 1996)がある。木村(1996)は、日本語の「誕生日はいつですか」という疑問文をスペイン語では次の二通りの疑問文で言えるとしている。

(4) ¿**Cuál** es el día de tu cumpleaños?
‘Which is the day of your birthday?’

(5) ¿**Cuándo** es tu cumpleaños?
‘When is your birthday?’

(4)と(5)において疑問詞 *cuál* (which) と *cuándo* (when) を交換することはできないという。木村は、(4)と(5)で疑問詞が使い分けられる理由を明らかにするため、日西語対照の観点から考察し、益岡・田窪 (1992)と益岡 (1993)²をもとに、3者以上の比較が関係する場合の日本語の疑問詞の使い分けを次表のようにまとめている。

² 益岡 (1993)は、日本語の名詞を「ヒト名詞」、「モノ名詞」、「コト名詞」、「トコロ名詞」、「ハウ(方向)名詞」、「トキ名詞」に分類し、疑問の表現形式に反映されることを指摘している。

名詞の種類	代表する名詞	疑問詞
人名詞	ヒト	誰
物名詞	モノ	何／どれ
事態名詞	コト	何／どれ
場所名詞	トコロ	どこ
方向名詞	ハウ	どちら
時間名詞	トキ	いつ

(木村 1996: 3)

上の表を選択基準として、木村は次の文で「いつ」が用いられるのは、3者の比較が関係し、かつ時間名詞について尋ねているためであると説明している。

(6) 今週の月曜日、火曜日、水曜日の中では、いつが一番都合がよいですか。さらに木村は誕生日を尋ねる文にこの規則を適用し、3者以上の比較が関係し、誕生日という時間名詞について尋ねている文であるため、(6)と同様に「いつ」を用いなければならないと述べている。

では、「スペインの首都はどこですか。」のように首都名を聞く場合には、なぜ疑問詞「どこ」が用いられるのだろうか。益岡 (1993)は、名詞のタイプに注目することで説明できる例として、次のような疑問文を挙げている。

(7) 去年、業績のよかった銀行はどこですか。

(8) セリーグでは、どこが好き？ (益岡 1993: 150)

益岡によれば、「××銀行はどこですか。」という場合なら、単に「××銀行」の存在場所を尋ねているのに対し、(7)で「どこ」が用いられるのは、「銀行」という名詞が場所の意味を含む「トコロ名詞」として扱われているためであるという。また、(8)で「どこ」が使用されるのも野球チームを「トコロ名詞」として扱うためであるとしている。ここで首都名を尋ねる疑問文にこの説明を適用すると、日本語では「首都」という名詞を「トコロ名詞」として捉えるために「どこ」が用いられると説明できるだろう。

3. スペイン語と日本語の疑問詞の品詞の違い

木村(1996)は、(4)と(5)の文で *cuál* (which) と *cuándo* (when)が使い分けられる理由を次の文を用いて説明している。

(9) El día de mi cumpleaños es el 21 de octubre.

‘The day of my birthday is the 21st of October.’

(10) Mi cumpleaños es el 21 de octubre.

‘My birthday is (on) the 21st of October.’ (木村 1996:10)

木村によれば、(9)の下線部は名詞句、(10)の下線部は副詞句であるため、(9)の名詞句を尋ねる場合には代名詞の *cuál*が使用され、(10)の副詞句を尋ねる場合には、副詞の *cuándo*が使われるという。また、(10)では *cumpleaños* (birthday) は日付そのものではなく、「誕生日という出来事」を意味する名詞であると述べている。

さらに木村は、スペイン語の *dónde* (where), *cuándo* (when)が副詞であるのに対し、日本語では「何」「どれ」と同様に「どこ」「いつ」も代名詞であることを指摘し、日本語における疑問詞の選択が疑問対象の意味分類(人か物か場所か、など)によってなされるのに対し、スペイン語では疑問の対象となる品詞が疑問詞選択の重要な基準になることを示している。以上の指摘に従えば、(1a)で疑問副詞 *dónde* (where)が使用できないのは、“la capital de España”が名詞句であるためであると説明できる。一方、疑問の対象となる品詞という基準だけでは説明できないのが *cuál* (which)と *qué* (what)の違いである。次節では、日西対照の観点から *cuál* (which)と *qué* (what)の使用基準について考察していく。

4. 疑問詞 *cuál* (which)と *qué* (what)の用法

最初に、スペイン語の疑問詞 *cuál* (which)と *qué* (what)の用法の違いを見てみよう。Real Academia Española (2010)は、疑問詞 *cuál* (which)は *qué* (what)と異なり、次の(11a)のように部分補語 (complementos partitivos)を認めることを指摘している。

(11) a. cuál de las propuestas

‘which of the proposals’

b. *qué de esas montañas

‘what of those mountains’ (Real Academia Española 2010: 415)

また、ある総体の中から選ばれるべき要素についての情報を求める (solicitar información acerca del elemento o los elementos que deben seleccionarse de algún conjunto) 際には、明示的な (expreso) 場合と暗黙の (tácito) 場合があると述べ、次のような例を挙げている。

(12) a. ¿Cuál de estas corbatas te vas a poner?

‘Which of these neckties are you going to wear?’

b. これらのネクタイのうちどれをするつもりですか。

(13) a. ¿Cuál fue la causa de semejante viraje?

‘Which was the cause of such a shift?’

b. そのような転換の原因は何だったのですか。

(12)のように有限個の選択肢が明示されている場合には、スペイン語では *cuál*、日本語では「どれ」が用いられる。これに対して(13)では、スペイン語では *cuál*、日本語では「何」が用いられる。ここで説明が必要になるのは、*causa*(cause)のような抽象名詞に対してなぜ *cuál* が使用されるのかという点である。

スペイン語では、「繫辞動詞 *ser* + 抽象名詞」が使用される疑問文では、次のように *cuál* も *qué* も用いられる。

(14) a. ¿**Cuál** es la causa?

‘Which is the cause?’

b. 原因は何ですか。

(15) a. ¿**Qué** es la causa?

‘What is the cause?’

b. 原因 {～とは／って} 何ですか。

日本語では、(15b)のように言葉の定義を問う場合には、「とは」や「って」という助詞を付加しなければならない。一方、スペイン語では、(14a)のように *causa* (原因) の特定 (*especificación*) を求める場合には *cuál* (which) が用いられ、(15a)のように *causa* (原因) という言葉の定義を問う場合には *qué* (what) が用いられる。(14a)、(15a)における疑問詞 *qué* と *cuál* は代名詞であり、“la causa”はともに名詞句であるため、木村(1996)の説明は適用できない。したがって、(14a)にお

いて「ある総体の中から選ばれるべき要素についての情報を求める際に用いられる」*cuál*が使われるのは、抽象名詞 *causa*（原因）という総体の中にも複数個の要素があるという含意がスペイン語では言語形式に顕現しているからであると考えられる。

5. 対照研究に基づく疑問詞 *cuál* の指導法

次に、前節までの考察をもとに疑問詞 *cuál* の指導法を考えてみたい。Sierra Martínez (2005) は、オランダ語を母語とする学習者を対象にして *cuál* と *qué* の使用について調査した。その結果、*qué* の誤用の 90 パーセントが繫辞動詞 *ser* が現れる文において *cuál* を用いるべきところに *qué* を使用したものであったという (p. 843-844)。Sierra Martínez が誤用の例として挙げている *qué* を使用した疑問文に現れる主な名詞を次に挙げる。

(16) *diferencia* (difference)

importancia (importance)

tema (theme)

causa (cause)

reacción (reaction)

posibilidad (possibility)

solución (solution)

función (function)

(16)に挙げた名詞はいずれも抽象名詞であることに注目したい。Sierra Martínez は、オランダ語でも、この種の名詞に対しては *qué* に相当する *wat* が使用されると述べ、母語転移による誤用であろうと推測している。日本語でも、これらの抽象名詞に対しては「何」が使われることから、日本語話者にも *qué* を使用するという誤用が起きることが予想される。このような誤用を避けるために、これまでの考察をまとめ、“¿Cuál+ser+名詞句?”の形式をとる疑問文を対象となる名詞の種類によって分類し、日本語の疑問詞との対応を次表に示す。

表 1：名詞の種類による *cuál* と日本語の疑問詞

名詞の種類	スペイン語	日本語
時間名詞	¿ Cuál es el <u>día</u> de tu cumpleaños?	誕生日はいつですか。
場所名詞	¿ Cuál es la <u>capital</u> de España?	スペインの首都はどこですか。
上位語となる名詞 ³	¿ Cuál es su <u>profesión/nombre</u> ?	{ご職業／お名前} は何ですか。
抽象名詞	¿ Cuál es la <u>causa/la verdad/el problema</u> ? ¿ Cuál es su <u>opinión/objetivo</u> ?	{原因／真実／問題} は何ですか。 {ご意見／目的} は何ですか。

次に、日本で出版されているスペイン語の文法書の記述を見よう。宮本(1995: 242)は疑問詞 *cuál* について、次のように日本語の疑問詞との違いを挙げていることが注目される。

cuál

選択「どれ」を表わす。日本語では「どこ、何、誰、いくら」などと訳されることも多いので注意が必要である。数変化(*cuál, cuáles*)する。

(宮本 1995: 242)

初級スペイン語文法の教科書では、一般に *cuál* の記述は他の疑問詞とともに例文だけが挙げられているものがほとんどである。和佐(2011)においても、第4課の疑問詞 *cuál* の項目に次のような例文のみを挙げている。

(17) ¿**Cuál** (×*Dónde*) es la capital de Argentina? — Es Buenos Aires.

‘Which (×Where) is the capital of Argentina? — It is Buenos Aires.’

(18) ¿**Cuál** es el número de teléfono de Ernesto? — Es el 368-71-75.

‘Which is the telephone number of Ernesto? — It is the 368-71-75.’

³ たとえば、*profesión*(occupation)という名詞は会社員、消防士、看護師などの下位語を持つ。疑問詞 *cuál* が使用されるこの種の名詞には *dirección*(address), *nacionalidad*(nationality), *número de teléfono*(telephone number)などがある。

(19) ¿Cuáles son las lenguas oficiales de Perú? — El español y el quechua.
‘Which are the official languages of Peru? — The Spanish and the Quechua.’

(20) ¿Cuáles son los apellidos de Penélope? — Son Cruz Sánchez.

‘Which are the family names of Penélope? — They are Cruz Sánchez.’

(和佐 2011: 23)

(17)では、日本語話者のスペイン語学習者に *dónde* を用いる誤用が経験的に多く見られることから、それを回避するために *dónde* が使用できないことを示した。また、*cuál* が数変化をした *cuáles* が使われる例を(19), (20)で示した。(20)はスペイン人が複数の姓を持つという背景的知識を教えることが必要な例文である。

初級文法では未習の語彙や文法項目が多いことから、4例とも繫辞動詞 *ser* を使った疑問文を挙げているが、学習者に段階的に *cuál* の用法を導入するためには、選択肢の範囲を明示した次のような例文を最初に導入することが必要であったと思われる。

(21) ¿Cuál de ellos es Juan?

‘Which of them is Juan?’

教科書では紙幅の関係もあり、*cuál* だけを重点的に扱うことは難しいが、教授用資料または文法書に *cuál* と日本語の疑問詞との対応関係を記述し、効果的な導入方法を考案していく必要がある。特に、(14)の *causa* (cause) のような抽象名詞に対して使われる *cuál* の用法を説明することは難しいが、次のようにイメージを図示することによって学習者の理解を促すことを提案したい。

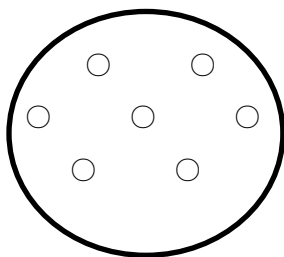


図 1 : ¿cuál? のイメージ図

図1は疑問詞 *cuál* が使用される場合のイメージ図である。これは、抽象名詞にも適用可能で、例えば「原因」といっても様々な原因があり、その中から1つを選び出す場合に *cuál* が使われると説明することができるだろう。

6. おわりに

本稿では、日本語話者のための効果的なスペイン語教材作成のための基礎研究の取り組みの1つとして、対照研究に基づく疑問詞 *cuál* の指導法について考察した。我が国の日西対照研究は、和佐(2005)で報告したように、1990年代から特に盛んになり、多くの研究の蓄積がある。しかし、「言語研究のための対照研究」が多く、日本語話者を対象とするスペイン語教育に直接応用したものは僅かである。また、大学でスペイン語を学ぶ大多数の学習者は中・高校で第2言語として英語を学んでいるため、英語と対照しながら導入した方が効率的な文法項目もある。今後は、第2言語としての英語が第3言語としてのスペイン語の習得に及ぼす影響についての研究も必要になってくるだろう。これからの日西対照研究は、「言語研究のための対照研究」と並んで「言語教育のための対照研究」も重視し、日本語話者を対象とするスペイン語教育に貢献していくことが不可欠である。そうすれば、日本語を母語とする学習者は、初級段階からスペイン語の体系上、構造上の特徴を日本語や英語と対照しながら学ぶことにより、効率的にスペイン語を習得することが可能になるだろう。

参考文献

- 井上 優 2002 「「言語の対照研究」の役割と意義」『対照研究と日本語教育』
国立国語研究所
- 木村琢也 1994 「疑問詞 *cuál* の用法の研究（上）」『HISPÁNICA』38, 29-45.
- 木村琢也 1995 「疑問詞 *cuál* の用法の研究（下）」『HISPÁNICA』39, 73-87.
- 木村琢也 1996 「¿Cuál es el día de tu cumpleaños?と¿Cuándo es tu cumpleaños?をめぐって—日西語対照の観点から—」『HISPÁNICA』40, 1-13.
- 張 麟声 2010 「言語教育のための対照研究の方法論について」『言語文化学研究（言語情報編）』第5号, 1-19.

- 益岡隆志・田窪行則 1992 『基礎日本語文法—改訂版—』 くろしお出版
- 益岡隆志 1993 『24 週日本語文法ツアー』 くろしお出版
- 宮城 昇・山田善郎監修 1999 『現代スペイン語辞典』 白水社
- 和佐敦子 2005 「日本語とスペイン語の対照研究の動向」 『神戸市外国語大学外国学研究』 61, 137-145.
- 和佐敦子 2011 『Gramática elemental del español』 朝日出版社
- Fries, Charles C. 1945 *Teaching and Learning English as a Foreign Language*.
Ann Arbor: The University of Michigan Press.
- Real Academia Española 2010 *Nueva gramática de la lengua española: Manual*. Madrid: Espasa-Calpe.
- Sierra Martínez, Fermín 2005 'Qué y cuál: su uso por alumnos neerlandeses',
Actas del XV Congreso Internacional de ASELE, 838-846.